

2~3面 クリスマスメッセージ

4~7面 地域YWCAの幸せのカタチ

呉 YWCA



チーズケーキ/リンゴのケーキ



福岡 YWCA



鶏のハイカラソース/ビーツと林檎のサラダ



福島 YWCA



豆乳プリン



とっておき! YWCAクリスマスレシピ 公開中

2018年のクリスマスシーズンにWEB公開した、YWCA特製レシピ。ご好評につき公開を継続しています。地域YWCA自慢の多彩なレシピが満載。QRコードからご覧いただけます。

The Young Women's Christian Association YWCA

12

DECEMBER 2019

No.753

www.ywca.or.jp

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

(日本YWCAの使命(ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

(日本YWCAのビジョン)
地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。

- (1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
- (2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
- (3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
- (4) 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

みんなのクリスマス すべての人に 平和がありますように

キリスト教を基盤に活動するYWCAは、クリスマスを大切にしています。毎年12月になると、各地域のYWCAではさまざまな催しが行われます。今月号は、そんな私たちの多様なクリスマスのカタチをご紹介します。YWCAと縁の深いアジア・キリスト教協議会の常議員・藤原佐和子さんによる、仏教国タイを舞台にしたクリスマスメッセージも必読です。それぞれのクリスマスに、一人ひとりに、平和がありますように。



クリスマス募金 2019

Immanuel

神さまがわたしたちと共におられるように、YWCAの活動も、大切な誰かと共に。

東日本大震災被災者支援募金

東京電力福島第一原子力発電所の事故からまもなく9年になりますが、いまだに事故の収束は程遠く、放射能被災による健康被害や環境汚染は深刻です。日本YWCAは被災地に暮らす子どもたちのためのリフレッシュプログラム、セカンドハウス、活動スペース「カーポートふくしま」を拠点とした事業で支援活動を続けています。

ピースメーカーズ募金

日本YWCAは「平和を実現する人々は幸いである」をテーマに、一人ひとりがピースメーカー(Peacemaker)として、人権、健康、環境が守られる平和な世界をつくり出す活動を展開しています。未来を見つめて、活動しようとする人たちのリーダーシップ養成に、ご協力をお願いいたします。

オリーブの木キャンペーン募金

紛争が続くパレスチナの地に、人々の生活の源であるオリーブの木を植える「オリーブの木キャンペーン」(パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同事業「JAI」)を応援しています。1口3,000円で1本の苗木を植えることができます。寄付者にはパレスチナから証明書が送付されるので、通信欄にお名前をローマ字表記で必ずご記入ください。

郵便振替 00170-7-23723

お振込み先

加入者名 公益財団法人 日本YWCA

通信欄に「クリスマス募金(被災者支援)」「クリスマス募金(ピースメーカーズ)」「クリスマス募金(オリーブの木)」のいずれかをお書きください

台風19号被災者支援募金のお願い

台風19号がもたらした甚大な被害に対して、東京YWCAと福島YWCAはそれぞれ長野と福島で支援活動を行っています。日本YWCAは、これらの支援活動のための募金を受け付けています。みなさまのお支えを心よりお願い申し上げます。

詳細は日本YWCA公式サイトおよびSNSをご覧ください
<http://www.ywca.or.jp/news/2019/1030news.html>

- ご協力ありがとうございます
- 賛助費
- 田中倍子 柳美津保 富田美樹子 原美左恵 田崎桂子 渡辺真知子 富安邦子 島海百合子 富岡美知子 宮城崇美子 伊藤眞智子
 - ピースメーカーズ募金 (平和をつくり出す女性のリーダーシップ養成)
 - 田中初枝 橋和義 土屋明子 梅谷道子 梅谷興三 浅輪一郎 吉田光司 久保新一 久保マサ子 根岸千恵子 石川万奈美 学校法人横浜英和学院 日本福音ルーテル小石川教会 ルーテル小石川教会ろう者会 日本基督教団経井沢追分教会 金沢文庫キリスト教会
 - 世界YWCA総会派遣募金
 - 柏木妙子 久我輝子 柴みち代 手島千景 内山康一 尾崎哲則 大野綾子 坂上信子 田中清子 俵泰子 今泉典子 富安邦子 伊藤眞智子
 - 仙台YWCA 静岡YWCA 沖縄YWCA
 - 災害時支援募金 (国内外の災害被災者支援)
 - 原美左恵 伊藤眞智子 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 生徒・教職員一同
 - (北海道地震被災者支援募金) 宇津陽子
 - 東日本大震災被災者支援募金
 - 柏木妙子 白田治子 伊藤眞智子 清水嶋孝 清水嶋洋子 福島のこともたを忘れない 希望をつなぐコンサート
 - 東チリッヒ福音メソジスト教会 甲府YWCA カイロサポートーズ 60件
- (2019年8月16日~10月15日 敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03-3292-6121 Fax.03-3292-6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | お名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp 無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。

人々に仕えるために
友となるために

クリスマスおめでとうございます。

「贈り物」はもう決まりましたか。この季節になると、テレビのCMや、雑誌広告や、街のイルミネーションはみな、私たちにクリスマスの贈り物を買いたいよう促します。ですが、キリスト教で肝心なのは、神様が大切な幼子イエスを救い主、キリストとして地上の私たちに「贈って」くださったのが、クリスマスだということです。神様は、私たちを上から支配したり、裁いたりするためにイエス・キリストを贈られたのではありません。イエス・キリストは人々に仕えるため、友となるために来られたのです。神学的に言えば、私たちの「解放」のために来られたと言ってもよいでしょう。

クリスマスチャンとは、この「イエス・キリストに倣って生きること」を意味しています。言い換えれば、自身をイエス・キリストと同じように「贈り物」として、人々に献げるような生き方をするということです。私にはまだできていませんが、世の中には自分のためだけに生きることを超えて、本当に「贈り物」のようになつて神様と人々に仕える女性たちがいます。私はずっと憧れてきたのは、アジアの女性の神学者たちです。

仏教国タイの女性神学者
チュリー先生の生き方

「微笑みの国」と呼ばれているタイの人々のほとんどが、上座部仏教徒だということはよく知られています。しかし、タイにはちょうど人口の1%だけクリスマスチャンがいるという事はあまり知られていません。実のところ、タイでは日本よりも早くから、女性の神学者

く、小さく貧しい教会、遠く離れた農村の教会を精力的に訪ねて回っていました。農民たちとともに田植えや収穫に取り組みチュリー先生の姿を見ると、神様からの「贈り物」として人々に仕えておられるということがよく分かりました。

農村の教会の
クリスマス

7年前、私が初めてチュリー先生の教会でクリスマスを過ごしたときのことです。バスや車を取り継ぎ山岳地帯に行くこと約6時間、ようやく農村の教会にたどり着きました。そこには何度か行ったことがありましたが、クリスマスはいつもと様子が異なります。この教会のクリスマスは、地域の仏教徒の人々を招いてのビッグイベントですから、いつもの小さな礼拝堂ではなく、広い庭にステージが設営されて、たくさんの方が並べられ、色とりどりの電飾がきらめきます。タイのクリスマスの風習で、老若男女みなサンタ帽を被っています。ページェント（降誕劇）では、子羊役の子どもたちまでもサンタ帽を被っていました。それから、地域の高校から伝統衣装を着た女の子たちがやって来て、タイ舞踊を披露してくれました。礼拝があり、ゲームがあり、イベントは夜遅くまで続きます。12月は乾季なので、だんだんと冷え込んできました。クリスマスの最後は意外なことに、屋外カラオケ大会でした。それも、日本では考えられないような大音量で、夜中2時、3時まで歌うので、私は少なからぬカルチャーショックを受けました。

心がこもっていれば、
どんなことでも

翌朝、私は爆音で目覚めました。大きなスピーカー



Christmas
in
Thailand



野外の特設ステージで多彩な
演目が披露された

アジア・キリスト教協議会(CCA)
常議員
藤原佐和子

クリスマスの
贈り物
Christmas
Message



著者の藤原佐和子さんと
チュリー先生。「私の神学
の師であり、タイでの母と
して敬愛しています」と藤
原さん

たちが活躍してきました。その秘密を知りたくて、私は大学院生時代、タイ北部のチェンマイで研究生生活を送っていたことがあります。そこで私は、チュリーパーン・スイーソントーン(チュリー先生)という女性牧師、フェミニスト神学者と出会いました。

チュリー先生は、チェンマイの一般的な仏教徒の家庭に生まれましたが、幼い頃に父親を亡くし、市場で食べ物売る母親と曾祖母に育てられました。「クリスマスチャンにならないこと」を母と約束してキリスト教の高校に転入すると、密かに洗礼を受けてクリスマスチャンになり、牧師を志して、神学校へと進みました。教会で副牧師として働いてから、さらにアメリカのボス

トン大学で神学博士号を取得します。そのとき、彼女が博士論文の中で取り上げたのは、アメリカ人の宣教師たちがもたらしたタイのキリスト教に対する影響、すなわち、牧師と人々との間の大きな隔たりの問題でした。チュリー先生は若いころから、こう自問していたといいます。

——イエス・キリストが神様からの「贈り物」として私たちのただ中に来られたことは対照的に、タイの牧師たちは人々のただ中に入らないのではないか？——

だからこそ、チュリー先生はチェンマイのパヤップ大学マクギルバリー神学校で教員として働くだけにな



山岳地帯の農村の小さな教会

を積んだピックアップトラックが教会の敷地に入ってきて、礼拝堂の前に停まり、タイの懐メロを大音量で流しているのです。運転してきたのは、昨日のクリスマスに参加していた仏教徒の男性です。一体、何が起きているのでしょうか。私が理由を尋ねると、チュリー先生が教えてくださいました。

「お金のある人は、献金としてお金を献げるでしょう。でも、あの人はお金が十分にならないから、代わりに音楽を献げて、感謝を表してくれているの」

私はハッとさせられました。いつから私は、気持ちを表すのはお金じゃなく、いけないと思ひ込んでいたのでしょうか……。心がこもっていれば、どんなこと

だって神様に喜ばれるに違いありません。繰り返しますが、クリスマスの一番の「贈り物」は、神様が私たちに与えてくださった幼子イエス・キリストです。それは、キリストが私たちのただ中に来てくださって、私たちがそっくりそのまま、喜んで受け入れてくださるという神様からのメッセージなのです。どうぞ心穏やかなクリスマスをお過ごしください。

天使……本格的な衣装に心が浮き立ちます。とくに東方の三博士の衣装の華麗なこと。生徒に介添えしてもらい衣装をまとうと、みんなの気分は一気に高まります。ナレ-



黄金、没薬、乳香を手にした三博士。金色を基調にしたきらびやかな衣装で登場



贈り物を捧げるシーン。左上で指示を出すのは、活水中高YWCA部の顧問の先生

昨年クリスマス会で、活水中学・高校YWCA部から素敵な贈り物をいただきました。生徒たちの提案で、学校で使っているページェント(降誕劇)の衣装や舞台セットを借りて、長崎YWCAの会員たち(70代以上)が劇に挑戦することになったのです。

長崎YWCAの会員はシニア世代ですが、自分たちで今できる最善を尽くそうと活動しています。私生活でも自主自立を貫く会員が少なくありません。思いがけず若い方によくしていただき、まるで孫がおばあちゃんを労わるような真心に触れたことが、一番の贈り物でした。この交流を機に若い方たちとつながり、新しい道が開かれることを願っています。



長崎YWCA

生徒たちの粋な計らい シニアたちのページェント

12月、古いツリーやオーナメントを飾ると、さらにクラシクな趣になります。クリスマスの催しには、小さな部屋に大勢の人が集まったものです。ガスが通っていないので軽食を作るときは電



クリスマスのチェロ四重奏コンサート。重厚なハーモニーに耳を傾けました



木立に囲まれて佇む「みつばハウス」

古き良きものを手放す一方で、新しい風も吹いています。最近のプログラムには、若い会員の姿も見られます。新しい拠点となる教会で、思いを新たに、若い世代へと繋げていきます。

松山東雲中学・高校の敷地内に、旧宣教師館「みつばハウス」があります。松山YWCAは12年前からこの建物をお借りして活動拠点にしてきました。1927年に建てられた旧宣教師館は松山上空襲で全焼したものの、戦後間もなく、焼け残った基礎をもとにヴォーリスの設計で再建されました。戦後の学校の復興と再建に尽力した宣教師・ジレット校長の住いでもあり、今もタイプライターやピアノなど調度品が置かれたままで、当時の佇まいを伝えています。松山YWCA創設には、ジレット

力頼み。ブレーカーが落ちないように、キッチンでIHヒーターを使うときは、湯沸かしポットは廊下で。そんな不便も楽しい思い出です。再建から70年、老朽化が著しくなりました。学校からは「使える間は使ってください」と言われて大切に使用してきました。老朽化には敵わず、補修も困難なことから新しい拠点へ移ることになりました。今年、「みつばハウス」で迎える最後のクリスマス。東雲中高YWCA部と共に祝いたいと考えています。



松山YWCA

「みつばハウス」で迎える 最後のクリスマス



地域YWCAの 幸せのカタチ

12月25日の4週間前から始まるアドベント(降誕節)の頃から各地のYWCAでは、さまざまなプログラムや催しが行われます。恒例の行事から新しい試みまで多種多様。それぞれのクリスマスから、大切にしているものが見えてくるようです。

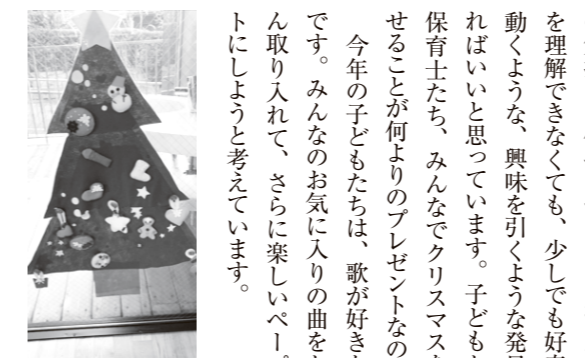


神戸YWCA
保育園

小さい子どもたちのための ペープサートに挑戦



保育士が操る紙人形に、子どもたちは興味津々のまよう



保育士のお手製のアドベントカレンダー

神戸YWCA会館の一角に小規模保育園を開園して今年で4年目。現在、0歳から3歳未満の小さい子ども11名が通っています。散歩や外遊び、お昼ごはん、お昼寝、日々の営みを丁寧に積み重ね、その時々子どもたち一人ひとりが感じていること、やりたい気持ちを尊重する保育を実践しています。日常の生活を大切にしているため、一般の保育園に比べて行事に対しては控えめかもしれません。それでもクリスマスは大切なひとときです。これまで3回クリスマスを迎えましたが、キリスト教基盤の小規模保育園とし

て子どもたちのために何が出来るか、ぜひぶん試行錯誤してきました。昨年は、保育士たちが降誕劇のペープサート(紙人形劇)に挑戦しました。連携している保育園の降誕劇を参考に、小さい子どもが飽きない程度の短いお話にまとめ、幼児用のクリスマスの讃美歌を盛り込んで、小さくも親しみやすい劇に仕上げました。紙人形も保育士たちの手作りです。お話が始まると、動く紙人形をじっと見つめる子がいたり、好きな賛美歌のときは元気いっぱい歌う子がいたり。席を離れる子がいても、そのまま。子どもの気持ちに任せます。クリスマスの意味を理解できなくても、少しでも好奇心が動くような、興味を引くような発見があればいいと思っています。子どもたちと保育士たち、みんなでクリスマスを通じることが何よりのプレゼントなのです。今年の子どもたちは、歌が好きなのです。みんなのお気に入りの曲をたくさん取り入れて、さらに楽しいペープサートにしようと考えています。



福岡YWCA

多国籍・多文化・多世代 違いを楽しむポットラック



子どもたちと一緒に飾り付けた会場は、歌声や笑い声に包まれます

品物の料理を持ち寄る「ポットラック」です。ハッピーコースターの保護者からは各国のおいしい郷土料理、ベテラン会員からは手の込んだおもてなしの品々……置く場所がないほどの品数が並びます。開会后、しばらくは全員の視線が料理に集中。食べるまでは何もできません。

この会は、福岡YWCA全体の活動を知り、それぞれの活動を応援している人たちと出会う貴重な機会でもありません。また、準備も片付けも、全員が手回し短時間で済ませるので、誰かが疲れることもありません。笑顔が笑顔を生み、出合いに感謝と幸せを感じるひとときです。今年度から新たに、社会的養護を必要とする少女たちの自立支援事業を始めました。新しい仲間が増えて、今年のクリスマス会はさらに賑わいそうです。



クリスマス名物ポットラック

本語を母国語としない子どもたちの学習支援「ハッピースクール」の生徒とその家族、先生、学生ボランティア。「平和グループ」や「聖書を学ぶ会」のベテラン会員、子育て支援グループの小さいお友だち、地域に住む方々、年齢、国籍、宗教もさまざまな人が交流します。クリスマスのお話や活動紹介のほか、学生ボランティアの用意したゲーム、特技を生かした出し物、ときにプロのシンガーが参加したり、みんなのダンスがあったり、サンタクロースも登場するなど、アットホームな雰囲気の中でお楽しみが盛りだくさん。一番のお楽しみは、一人一

静岡YWCA

地域への感謝を込めた パウンドケーキの贈り物

焼きたてのパウンドケーキの芳醇な香りが、今年もクリスマスの訪れを告げます。毎年12月上旬になると、静岡YWCAでは「パウンド焼きの日」を設けて70本ほど焼き上げています。特製のオレンジピールを混ぜ合わせたこのパウンドは、静岡YWCAとつながりのある地域の方々の間でもクリスマスの味として知られています。

静岡YWCAがパウンドケーキを焼き始めたのは、1980年に創立してすぐ、アフリカ支援のパザールに出品するためでした。当初は、縁のあった教会から伝統のレシピをいただき、教会の味を踏襲していました。やがて歩みを進めるうちに「自分たちの味を出していこう」という思いが高まり、創意工夫を試みるようになってきました。紅茶や小豆を用いたこともありました。今はオレンジピールのパウンドが静岡YWCAの味として定着しています。

この日に焼いたものは、1年のうちにお世話になった方々へ感謝を込めて贈ります。クリスマス前の聖句や感謝の言葉を書き添えたカードも忘れずに。毎年欠かさず贈っているのは、地域の教会や関係団体です。静岡YWCAは建物や事務所を持っていません。集会や活動のたびに、



恒例のクリスマス礼拝&祝会も教会で。教会や教派、信仰の有無を越えて集い、共に祝います

つながりのある複数の教会に問い合わせスペースを借りています。パウンド焼きも教会のキッチンです。教会からは場所の提供のみならず、アピールやミニバザーを開く機会をいただくこともあります。めぐることがあっても、自分たちの組織だけでは限界があります。静岡の地から平和な社会をつくるためには、地域の教会の理解や支援、関係団体との連携が欠かせません。つながりに感謝して、今年も腕を振ります。

大阪YWCA シャロン千里

こども図書館の ホームカミング・クリスマス



水曜・金曜14時30分～17時に開催。絵本や児童書が充実しています

1969年、大阪北部に開発されて間もない千里ニュータウンに、大阪YWCAは「千里センター」(現シャロン千里)を開設しました。今年50周年を迎えるセンターで、開設当初から続いている活動が「こども図書館」です。当時の千里には、子どもを通じた場所や文化的環境が整っていませんでした。図書室には、多いときには1日に200人近い子どもたちが訪ね、本を開いて友だちと語り合う姿がありました。近年では、ITメディアの普及や家庭のあり方の変化に伴い、本を読

む機会が減り、親子で絵本を広げるゆとりも持てないようです。ニュータウンの少子高齢化もあって、図書室を訪れる子どもは少なくなりました。今は、地域の小学校に赴いて、本を読み聞かせる活動をしています。10数年前からは、未就園の子どもと親を対象に「ちゅうりつぶくらぶ」を開催しています。絵本を読み聞かせ、子どもと一緒にわらべうたを楽しみむひとときの豊かさに共感が広がり、多くのお母さんたちが参加しています。クリスマス会は、ここで幼児期を過ごした子どもたちのホームカミングデーでもあります。この日、赤ちゃんから普段は忙しい小学校高学年の子どもまでが、懐かしくホッとできる図書室に帰ってきて、クリスマスのお話に耳を傾けたり、久しぶりに会う友だちとおしゃべりを楽しんだりして過ごします。今年50周年のクリスマスなので、ちよつと特別な用意をしています。

クリスマスにおすすめの本は、プレゼントの参考にもなりそう

人間関係の希薄になった現代こそ、子どもたちが本との豊かな出会いを体験することを願って活動を続けていきます。

札幌YWCA

被災地の子どもたちと 歌って笑ったひととき

2018年9月6日、北海道胆振東部地震が発生しました。札幌YWCAは直後から、札幌市内の教会や教団と共に支援連絡協議会を組織し、協働して支援活動を行ってきました。その一つが、震源地に近い「むかわ町子ども発達支援センターたんぼぼ」での期間限定ボランティアでした。その縁で、同施設の先生から「今年クリスマス会を準備する余裕がない」という相談を受け、実施しました。

当日、「たんぼぼ」には、札幌YWCA、札幌バプテスト教会、



子どもたちとその家族約60名が参加。「久しぶりに大声で笑いました」といった声も聞かれました

日本基督教団北海道区、札幌北野キリスト教会等から11名が集まり、先生と一緒に子どもたちとその家族を迎えました。ミュージックベルの演奏やマジック、エプロンシアターなどは、披露するだけでなく子どもたちとのコミュニケーションにも重きをおきました。特に盛り上がったのは、3人の牧師によるサンタクロースのコント。サンタ語を話すサンタクロースと「サンタ語通訳係」が、子どもたちを巻き込んだ楽しいやりとりを繰り広げ、会場を沸かせました。支援連絡協議会に連なる方々から提供されたお菓子、おみやげのプレゼントも喜んでいただきました。支援に携わった多くの方々、一緒に歌って笑った子どもたちやご家族、その場にいない人も、大勢の思いとチカラがあって成りえたクリスマス会でした。むかわ町では今も仮設住宅で暮らす方々がいます。町を離れた方も少なくありません。もうすぐ被災地に二度目のクリスマスが訪れます。12月9日と12日、「たんぼぼ」と、新たに「むかわ町発達支援センター 穂別きりり」で、それぞれ催しを企画しています。

